説教20220522ヨエル2：21-27ヨハネ14：23-29「イエスの預言」

あなたがたは、神と富とに仕えることはできない、と聖書には記されていますが、この御言葉を現代社会に当てはめるならば、あなた方は、平和とお金とに仕えることは出来ないと言えるでしょう。平和とお金、このことで思い出されるのは、最近起こった、誤送金にからむ事件のことです。農村で衣食住に恵まれそれなりに平和に暮らしていた青年が、突然目の前に積まれた現金を手に取って自分の物にしてしまったという事件です。この事件は、報道の仕方もあるでしょうが、この青年の愚かで滑稽な行いを、嘲笑する風潮に社会は包まれました。しかし、聖書にも記してある通り、古今東西私たち人間は、富を偶像にして心奪われてしまいがちなのですから、この青年のことを他人事として嘲笑している場合ではないのです。

お金のゆえに肝心の平和を失ってしまう、なんともおかしなことですが、でも私たちはそれをやってしまうのです。それはなぜでしょうか。ひとつ言えるのは、この世で、平和、平和と私たちが言っている、その平和の中身或いは実態が言うほどはっきりとはしていないからでしょう。平和、平和と言って平和を追い求めていながら、その平和の意味するところがはっきりしないならば、私たちはきちんと平和のほうに向きなおることは出来ないでしょう。

聖書で、平和と言われているのは、主の平和のことです。私たちが平和の挨拶で交わしているあの主の平和のことです。それは、今の地上で一般的に追い求められている、私たち人間の平和とは一線を画する、主の平和ということです。ヘブライ語ではハレルヤと申します。この主の平和は、主イエスの御言葉によって私たちの内にもたらされ実現されることです。今日の聖書箇所でいえば、ヨハネによる福音書14章27節の主イエスの御言葉になります。「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。」つまり私たちの内に平和が実現される為には、自分の思いや工夫に寄り頼むのではなくて、この主イエスの御言葉、つまりは主イエス御自身を信じて、その言葉を守っていくことが必要なのです。「わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない」とイエス様は言われています。このことは、イエス様が私たちに残し、実現されようとしているその平和は、今の世の中で報道されているような、戦争状態とその状態からの脱却そして終戦といった成り行きで実現されるこの世の平和以上の、私たちの思いをはるかに超えて幸いな、主の平和、ハレルヤだということです。そしてその主の平和は、イエス様の「あなたがたに平和があるように」という一言で実現されるのです。もちろん私たちがイエス様を信じ、その言葉をいつも守って生きていることが必要ではあるのですが。

ヨハネによる福音書はその冒頭から、御言葉であるイエス様ご自身が万物を作り、そして今もつくり変えておられるということを語っています。どうかそのことを私たちが信じそして、いつも御言葉を守って生きていくことが出来ますように。

詩編の冒頭にも同じことが記されています。「いかに幸いなことか、主の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさむ人。」このようにイエスの御言葉を信じそれをいつも愛して、口ずさんでいる人は、幸いのうちに、主の平和のうちに入れられていくのです。御言葉を口ずさんでいるだけで幸せになれるというこの成り行きは、この世の成り行きからすれば、不思議に見えますが、イエス様を信じてみれば、全然不思議な事ではないでしょう。むしろ、平和の意味が分からないまま、平和、平和と追い求めている現代社会の理不尽さに気付かされることでしょう。

さて、イエス様は最後のまことの預言者でありますが、イエス様の前にもこの世に預言者が現れて、世の人々に預言をしました。預言というのは、人々に告げ知らされる神の言葉であり、預言者は神の言葉を託されて、神の言葉を語ったのでした。今の世の中でも、説教する者は、この預言をする役割を担わされています。

今日与えられましたヨエル書の聖書箇所も、預言者ヨエルが語った神の言葉であります。その中身は、主イエスが私たちに残し、与えようとされている主の平和のことです。この聖書箇所に平和という語句は出て来ませんが、２章２５節に出て来ます「償う」という語句が実は、平和を実現する、という意味なのです。つまり２５節は次の様になります。わたしというのは主イエスのことです。

わたしがお前たちに送った大軍　すなわち、かみ食らういなご／移住するいなご、若いいなご／食い荒らすいなごの／食い荒らした幾年もの損害をわたしは修復し、平和を実現する。

主の平和は、イエス様が召天された後、今の私たちに残されていますが、それが完全に実現するのは、最後のキリストの再臨のときになります。ですから、私たちは、毎主日に主の平和と言って、挨拶をすることが出来るのですが、それは完成形ではないということです。最後の最後まで、主の平和は完成を目指して、高くあげられていくのです。それはなんと幸いなことでしょうか。

さて、私たちに語られる神の言葉は、父子聖霊の３つの神それぞれが私たちに御語りになります。今日のヨハネによる福音書によれば、御子イエスの言葉は、私達と一緒に住んでいる人の親しい言葉でありますし、父なる神の言葉は恐るべき偉大な言葉であります。そして弁護者である聖霊の言葉とは、裁きの座に立つ私たちをその都度、弁護して下さる思慮と分別そして憐みの言葉であります。

この様に三位一体である一つの神は三様の御言葉を私たちに聞かせ、しかもそれは３つに切り離すことが出来ない一つの御言葉を示しているのです。

ではこの三位一体の神が私たちに熱情をもって語って下さる主の平和を味わって参りましょう。

平和というのは、イエス様ぬきで人間だけが考え始めると、実に矛盾に満ちた捉えどころのない概念になってしまいます。平和というのは確かに、自分一人でも感じることが出来ます。有名な詩編23編には次のように歌われています。「主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い、魂を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしく／わたしを正しい道に導かれる。死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れない。」ここで歌われているのは私という個人が、主を信頼しているがゆえに、どんな災いの時にでも救われていて、平和に入れられている。ということです。主の平和が、主によってその個人のうちに、もたらされているということです。そんな個人は、周りの状況が最悪であっても、平和であるということです。

でも、平和というのは、自分ひとりで感じることに留まることではないことも確かです。社会が乱れて、人と人とが戦争をしているのに、個人的に平和に暮らしていれば、人間的な思いからすれば、ただそれだけで、その個人の平和が批判されるべきことになってしまいます。つまり、人間的なレベルの平和というのは、そもそも、平和が戦争を導き、戦争が平和を実現するといった繰り返しに過ぎないのでありましょう。

そんないわば偽りの平和を、預言者エレミヤは手厳しく世の中に向かって批判しました。エレミヤ書８章１１節「彼らは、おとめなるわが民の破滅を／手軽に治療して／平和がないのに「平和、平和」と言う。」

では、人間的な平和に対する、主の平和というのはどんなのでしょうか。それは私たち人間の思いをはるかに超えて実現される平和です。ですから私たち人間が主の平和を、完全に理解しようとし、自らの思考のうちに捕らえようとすると、無理が生じてしまいます。その代わり私たちは、主の平和を昼も夜も口ずさんで参りたいと願います。

今日のヨエルの預言は、私たちが夜も昼も口ずさむ平和の言葉であります。イナゴの大群によって食い荒らされ損傷したこの大地に向かって、主イエスは、大地よ、恐れるな、喜び躍れ。主は偉大な御業を成し遂げられた、と預言の言葉を語られます。それは大地にある全ての被造物に向かって語られています。大地に暮らす私たち人間も、その御言葉によって実らされ、喜び躍る者とされるのです。私たち人間は、この主によって実現された主の平和をほめたたえる者とされます。３章26節「お前たちは豊かに食べて飽き足り／驚くべきことを／お前たちのために成し遂げられた主／お前たちの神なる主の御名を／ほめたたえるであろう。わたしの民は、とこしえに恥を受けることはない。」

主が実現される主の平和というのは、このように被造物全体がつくり変えられ、全く新たな平和の秩序が実現することを語っています。また、それと同時に、私たち一人一人が主イエスに繋がって、個人的に主の平和を得ているということも語られているのです。

言い換えれば、平和の君である主イエスは、世界全体に平和を実現するお方であると同時に、私たち一人一人のこともほっておかれない、広くて深い愛の御方であるということです。

　さてこの様に主イエスだけが実現して下さる主の平和でありますが、その平和の御業に私たちが預かっていくにはどうすればよいのでしょうか。そのことを主イエスは、平和を実現する人々は、幸いである、という御言葉で私たちに語られています。

つまり「あなたがたに平和があるように」というイエス様の一言で実現される主の平和は、その御言葉を信じる者たちによって、担われ、実現されていく、幸いな出来事であると主イエスは言われているのです。

私たちはこの二つの御言葉「あなたがたに平和があるように」「平和を実現する人々は、幸いである」という二つの御言葉をどちらも主イエスの預言として、昼も夜も口ずさんで参りたいと願います。

さて平和と戦争の果てしない繰り返しのような人間による平和でありますが、そうではない主の平和。それが完成するのは最後の時となりますが、そこに向かっている、私たち主イエスを信じる者たちにとっての幸いは、主イエスの預言であります。「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。」

なぜ主イエスは心を騒がせるな、怯えるなと言われているのでしょうか。それは主イエスはこの預言で、平和が与えられる前に、私たちが必ず通ることになる十字架の死と、復活のことをも預言しているからです。主の平和の実現と、十字架の死と復活とは、一本の道でつながっているのです。私たちはそのことの計り知れない恵みと幸いとを覚えつつ、主の平和の与え主であるイエス様の道を歩んで参りたいと願います。

天の父

私たちは、この地上で平和を希求しておりながら、なすすべがありません。あなたに救いを求める私たちをどうかお救い下さい。世が与えるようにではなく、あなたから与えられる主の平和を、御子キリストによって私たちにお与えください。

天に上げられた御子が、わたしたちに送って下さる聖霊に満たされて、

私たちが、分別と憐れみとを以って、隣人を愛していくことが出来ますように。

天に行われている平和が、地にも行われます様に